

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル(科目名)  保育実習 I (保育所)	授業の種類  ( 講義・演習・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実習</span> )		授業担当者	当該科目に関する 実務経験
			青田 由美子	保育士
			神林 美保子	保育士
授業の回数	時間数 (単位数) 80 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育実習は学内で学習した理論を、保育士の仕事に助手的な形で携わることを通して、授業で学んだ内容と実践の統合をはかることを目的とする。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習を通して子どもの生活を理解する。</li> <li>・ 実習を通して子どもを取り巻く環境を理解する。</li> <li>・ 実習を通して保育士の役割を理解する。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部分実習を行うことで保育と子どもについて実践的に学ぶ。</li> <li>・ 乳幼児との関わりを通して子ども理解を確かなものにする。</li> <li>・ 保育士の役割や専門性を知り、必要な知識や技術を習得する。</li> </ul>				
<p>[実習方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所での生活に参加することにより、保育の一日の流れを全体的に理解し、乳幼児の生活や遊びの観察、保育士の保育業務の観察を通して保育所保育の在り方を学ぶ。</li> </ul> <p>[実習段階の具体的な内容]</p> <p>① 見学・観察実習 保育の実際の観察を行う。一日の生活の流れ、生活内容の概要、対象児のおおまかな行動と展開、それにもなう保育士の対応を把握する。</p> <p>② 参加実習 担当保育士の指示に従い、保育士の助手として参加する。対象児と共に遊び生活することで興味や関心、感情の動きを感じ、保育士の援助を学ぶ。</p> <p>③ 責任実習 (部分実習) 生活面の一部、あるいは遊びの一部など一日の流れの部分において、事前に指導案を作成し主体的に保育を実践する。</p> <p>[実習の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 歳未満児と幼児の生活のそれぞれを理解する。</li> <li>・ 日課に沿って保育士の活動 (環境・子どもへの対応など) を多面的に理解する。</li> <li>・ 自ら準備した課題を保育の場で実践する。</li> <li>・ 保育士を志すものとして自覚を高める。</li> </ul>				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これからの時代の保育者養成実習ガイド 学生・養成校・実習園が共に学ぶ 中央法規出版</li> <li>・ 実習の手引き</li> </ul>				
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80% 以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点 (75%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、実習評価の成績により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点 (25%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>				